

聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 救命救急センター

病院名・診療科名・研修プログラム名

聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 救命救急センター

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院救命救急センター基幹 後期研修医プログラム

住所・連絡先

〒241-0811 神奈川県横浜市旭区矢指町 1197-1 電話 045-366-1111（代表）

HP : <http://www.marianna-u.ac.jp/seibu/kyukyu/index.html>

連絡先 :

naomi@marianna-u.ac.jp 救急医学 医局秘書 浜田

ermasu1@gmail.com 榊井良裕 救命救急センター長

yuka2011sendai@gmail.com 救命救急センター スタッフ医師 北野夕佳

指導医名・記載者名

〈救命救急センター専属医師〉

センター長：榊井良裕、副センター長：吉田徹

スタッフ医師：北野夕佳、若竹春明

〈非常勤医師〉 小菅宇之、藤谷茂樹、尾崎将之、野村悠

上記以外にも各科からサポート医師あり。聖マリアンナ医科大学救急医学との人的交流も活発

記載者：堤健、北野夕佳、榊井良裕、藤谷茂樹

科の目標としている医師像

自分が患者であれば、是非とも担当してもらいたいと思える医師。

すなわち、世界標準の診療（救急・集中治療・病棟総合医として）を身に付け、かつ患者の全体像を踏まえて、患者のために最善の診療を実行に移せる医師。

スタッフの人数

救命救急センター専属医師 男性3人、女性1人

後期研修医の人数

男性6人、女性0人

当直

月6回（当直明けの帰宅；状況によるが、昼ごろまでで帰宅可）

診療科独自の病床数

救命救急センター40床（セミクローズド ICU 10床 / HCU 30床）

勉強会やカンファレンスの開催曜日・時間とその概要

- 救急放射線合同カンファレンス：平日毎朝 8時30分～9時00分
前日の救急外来症例に対して、救急画像診断に精通した放射線科医の画像診断を主軸に症例検討を行う。
- 救命救急センター回診：原則毎日（土日祝日含む）11時頃（外来状況に応じて変更）
救命救急センター入院症例の病棟回診。主治医が症例プレゼンテーションを行い、全員でベッドサイドを回りながら、患者状況を共有し、治療方針についてスタッフと共に議論する。
- アウトプットレクチャー：毎日（2015年4月から開始）
北野を中心としたスタッフ医師から受けたコアティーチングを、使える知識として定着させるために、後期研修医が行うアウトプットレクチャー。重要な基本テーマを繰り返し扱うことで、抜けのない臨床能力を構築する。
- ジャーナルクラブ（多施設合同）：毎週火曜日 12時30分
8年間欠かさず行っている集中治療分野に関する最新重要論文の抄読会。聖マリアンナ医科大学救急医学（本院）および東京ベイ浦安市川医療センター集中治療科と合同で、批判的吟味を行いながら論文を熟読する。ジャーナルクラブの内容を受けて、明日からのプラクティスとして我々の施設ではどういう診療方針にするのかまで決定する。
- 論文読み方講座（月4回程度）
北野が、米国内科レジデンシーで習得した、論文のポイントを押さえて読むノウハウ（Critical appraisal worksheetなど）を、上記ジャーナルクラブの予習として行う基本講座。忙しい臨床の中でポイントを押さえて論文を読む能力を習得します。
- 循環器専門医による循環器コアレクチャー・心エコーハンズオン（月1回）
吉田徹による救急・集中治療で必須の循環器コアレクチャーおよびすぐに使える心エコーハンズオンレクチャー

- 救急基本勉強会：日時不定期（それぞれ年3～4回程度）
FCCSインストラクターによる人工呼吸器レクチャー（若竹春明）、沖縄中部病院OBによる感染症・グラム染色レクチャー（若竹春明）、外傷放射線の第一人者による救急画像診断レクチャー（松本純一）、ACLSアップデート（榎井良裕）など実臨床で使えるレクチャーが定期的開催されています。
- PBL（problem based learning）症例検討会：毎月第4土曜日 14時30分～16時30分
すべて英語で行う症例検討会。後期研修医が英語で症例プレゼンテーションを行い、症例検討を通し、英語でのプレゼンテーションの方法と、PBLの考え方を学ぶ。外国人講師も招聘あり。

具体的な研修・業務内容の紹介

- 救急外来～ICU～Hospitalist～退院調整まで、自分で診続けられる連続性。
- 上記をカバーできる究極のGeneralistが機能している数少ない施設のひとつです。
- 横浜市西部を担う地域中核病院として、十分な症例数・重症度。
- ベッドサイド5分間ティーチング（雑誌Hospitalist 北野夕佳連載）が日々実践され、施設内で共有されています。
- 後期研修医には5分間ティーチングを自分の持ち札として巣立ってゆくことを課します。
- 現に卒後5年目が、病棟チームリーダーおよび救急外来PHS持ちとして第一線で活躍しています。
- 救急ポケットレファランス（2016年9月発売予定、北野夕佳監訳、原書：Pocket Emergency Medicine）を翻訳分担・監訳し、即日常臨床に導入しています。
- 聖マリアンナ医科大学救急医学講座（本院）との人材交流も盛んで、臨床だけでなく研究も当院で常時進行中です。
- 下記関連施設との人的交流もあります。

関連教育病院

- ・ 川崎市立多摩病院 救急災害医療センター
- ・ 東京ベイ・浦安市川医療センター
- ・ 練馬光が丘病院
- ・ 東京北医療センター
- ・ 福井大学医学部附属病院
- ・ 聖隷横浜病院

- 取得可能な資格
救急専門医、集中治療専門医。その他日本内科学会総合専門医など要望があれば、関連病院のプログラムと協力して取得可。
- 時短勤務も可能・ライフワークバランスの確保
個々人の事情に応じた時短勤務も調整可能です。実際に女性医師が育児をしながら後期研修医として2年間在籍し、救急のトレーニングをした実績があります。

研修修了後の主な進路

聖マリアンナ横浜市西部病院 救命救急センター スタッフ医師として残り、仲間に（大歓迎！）
聖マリアンナ医科大学 救急医学 スタッフ医師（法人関連病院：大学本院、横浜市西部病院、川崎市立多摩病院）
日本各地の救急部・総合内科（関連施設も多数あり）
ハワイ大学レジデント（2014年度一人マッチング）

その他自由記載

- 2014年5月に ホームページを立ち上げました。詳細に当センターの特徴が記載してありますので、ぜひご覧ください。
<http://www.marianna-u.ac.jp/seibu/kyukyu/index.html>
- 横浜市西部病院を一緒に盛り上げてくれる、後期研修医・スタッフ
医師とともに常時 **大募集中**です。興味を持たれたらお気軽にメール等ご連絡ください。まずは見学に来られてください。